

令和七年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問四** まであり、1 ページから13 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|-------------|----------|---|------|---|-------|---|-------|
| a | 今年の夏は酷暑だった。 | (1) こくしょ | 2 | ざんしょ | 3 | ねっしゃ | 4 | かくしゃ |
| b | 家を留守にする。 | (1) りゅうす | 2 | るしゅ | 3 | りゅしゅ | 4 | るす |
| c | 瓶に牛乳を充填する。 | (1) ほじゅう | 2 | ほとん | 3 | じゅうてん | 4 | じゅうしん |
| d | 秋の澄んだ空を眺める。 | (1) す | 2 | しず | 3 | く | 4 | にじ |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | |
|---|---------------------|---|---------------------|
| a | 書道の大会でキンシヨウをもらう。 | 2 | 司法の場で無罪をシヨウメイする。 |
| 1 | 危険をシヨウチの上で挑戦する。 | 2 | この館では不思議なゲンシヨウが起こる。 |
| 3 | 家臣にオンシヨウとして領地を与える。 | 4 | もめ事をエンマンに解決した。 |
| b | 体操のエンギをする。 | 2 | 立候補者のエンゼツを聞く。 |
| 1 | 海でエンエイの練習をする。 | 4 | 踏切を渡るときはサイシンの注意を払う。 |
| 3 | 食事のエンブンを控える。 | 4 | 悪事に対してセイサイを加える。 |
| c | 両者の主張を聞いた上でサイテイを下す。 | 2 | 結婚指輪に日付をコクインする。 |
| 1 | 部長ゴフサイが式典に参列する。 | 4 | 秋にコクモツを収穫する。 |
| 3 | 神社でサイレイをとり行う。 | | |
| d | 鐘の音が正午をツげる。 | | |
| 1 | 選挙日程が文面でコクジされる。 | | |
| 3 | 連絡事項をコクバンに書く。 | | |

(ウ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|---|------------------|
| 1 | 皆様から広く意見をうかがいます。 |
| 2 | 私から事情をお話しになります。 |
| 3 | ぜひわが家へお立ち寄りください。 |
| 4 | すぐに資料を用意いたします。 |

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

多くの本やインターネットで海洋ごみの問題について調べたが、その重大さを実感できなかった。しかし、実際に海岸の清掃ボランティアに参加してみると、ごみの多さに驚き、問題の重大さを実感することができた。まさに□だと思った。

- | | | | |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | 百聞は一見に如かず | 2 | 石の上にも三年 |
| 3 | 鶴の一声 | 4 | 三人寄れば文殊の知恵 |

- (オ) 次の例文中の――線をつけた「ばかり」と同じ意味で用いられている「ばかり」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 試合はまだ始まったばかりだ。

- 1 あとは彼の到着を待つばかりだ。
- 2 家具を一メートルばかり移動させる。
- 3 今にも踊りださんばかりに喜んでいる。
- 4 買ったばかりの携帯電話を落としてしまう。

- (カ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

著作権上の都合により省略

夏石 番矢
なついし ばんや

- 1 頼りない様子で滝から離れるように吹く風を、未来からやってきているとたとえることで、何が起こるかわからない未来が来ることに對する不安を、心情を表す語を用いて描いている。
- 2 滝にぶつかり二方向に分かれて吹く風を、未来から来たと見立てることで、未来は様々な可能性もっていることを感じさせながら、人々の未来への希望を平易な表現で描いている。
- 3 なだれ落ちる滝を吹き割るほどの風を、未来から吹いてきたとたとえることで、現状が明るい未来に向かって切り開かれていく予感を、句全体に力強さが感じられるように描いている。
- 4 たとえ未来からの風が吹いても動くことのないであろう滝を、人々の揺らぐことのない未来への意志に見立てることで、輝かしい未来への期待を、躍動感あふれる表現で描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学一年生で野球部員の「矢^やノ浦^{のうら} 会^{かい}」は、精神力を身につけるために監督から一時的に弓道部へ入部することを勧められる。不満もあつた「会」であつたが、野球部を辞めさせるわけではないと言つた監督の言葉を信用して弓道部に入部することにした。弓道部では矢を放つまでの基本動作である射法八節の型の練習を繰り返した。一通り型をこなせるようになり、弓に似た練習道具のゴム弓を引けるようになれば、実際に矢を射させてもらえらると思つていた。

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

（著作権上の都合により省略）

（斎藤 貴男「正射必中！ 弓道部」から。一部表記を改めたところがある。）

（注）弦Ⅱ弓に張る糸。

玉井Ⅱ弓道部の上級生。

シャドー・ピッチングⅡ投手がボールを持たずに投球動作を行う基礎練習。

あだやおろそかにⅡいいかげんに。

那須Ⅱ弓道部の顧問。

的場Ⅱ弓道などを練習するために的がおかれている場所。

会Ⅱ射法八節の中の発射直前の状態をとる動作。

嵩にかかってⅡ勢いにつて高圧的に。

（ア）——線1「弓と矢を貸してやれ。」とあるが、そのときの「那須」を説明したものとして最も適する

ものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「玉井」の指導が「会」の力を引き出せていないことにもどかしさを感じ、「会」に対して自ら指導すること、「会」ならばうまく弓を引けると確信していることを部員たちに示そうとしている。

2 「玉井」の指導によって明らかに自信を失っていく「会」の様子を見逃すことができずに、一度だけでも「会」に矢を射させることによって、「会」の自信を取り戻す手助けをしようとしている。

3 「玉井」の丁寧な指導に従わずに弓を引きたがる「会」の態度を黙って見ていることができず、実際に弓を引くことの難しさを「会」に経験させて、「会」の思い上がりに気づかせようとしている。

4 初心者をあからさまに見下したような指導を続ける「玉井」に対していら立っている「会」を見過ごすことができず、「会」に矢を射させることで、「会」の気持ちを落ち着かせようとしている。

(イ) 線2 「こんなはずじゃ、なかったのに。」とあるが、そのときの「会」を説明した次の文章中の I・II に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------------------|----|----------------|
| 1 | I | 自信過剰であつた自身の姿 | II | 他の人より劣っている |
| 2 | I | 自分の怒りの感情 | II | たまたまうまくいかないだけだ |
| 3 | I | 弓道への自信がなくなっていること | II | もつとうまく教えてほしい |
| 4 | I | 反発する気持ちが生まれてきたこと | II | もつとほめてほしい |

1 的を射ることができなかったことへの「弓山」からの指摘に対して、素人の「会」にしては上手にできていたという思いもあったが、「弓山」に言い返したところで恥を重ねるだけだと考えている。

3 恥ずかしさから弓道場を立ち去ろうとしたことを「弓山」に注意されて反発する気持ちもあったが「弓山」の指摘は「会」の痛いところを突くものであったため、言い返すのをがまんしている。

(エ) ―線4「よしなさい、弓山くん。」とあるが、ここでの「的場先輩」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

3 自身の未熟さを自覚しているはずの「会」をこれ以上攻めさせないために、「弓山」の行き過ぎた言動を止めようという思いを込めて、きつぱりとした口調で読む。

(オ) ―線5「だ、だって、的場先輩。」とあるが、そのときの「弓山」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 弓道の練習を軽視して矢を射ようとしてもしない「会」を弓道部から追い出そうとしたことについて、「的場先輩」から注意を受けたが、素直に受け入れることができずにうろたえている。

2 弓道経験者である「弓山」が、弓道の楽しさを知ろうとしてもしない「会」に弓道のもつ魅力を伝えようとしていたところを、「的場先輩」に止められたことに對して不満をぶつけている。

3 自分の指導によって、「会」は弓道の技術を上達させることができたという思いがあったが、自分が行っていた指導を「的場先輩」に突然止められたことに戸惑いつつ反発している。

4 弓道に長年とり組んできた「弓山」が、弓道を軽視するような態度をとっていた「会」に對して強い口調で不満をぶつけていたところを、「的場先輩」に制止されて納得できずにいる。

(カ) ―線6「仲間……か。」とあるが、そのときの「会」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 大きな態度をとって恥を聞いたことにきまりの悪い思いをしながらも、「的場先輩」の言葉を聞いたことで、わがままを指摘した上で仲間として受け入れてくれる人がいる喜びを感じ始めている。

2 迷惑をかけた自分を仲間と認めてくれた「的場先輩」にこれ以上迷惑をかけないために、弓道部を辞めようとしたが、弓道を教えてくれた仲間たちのことを思い出して切ない気持ちになっている。

3 「的場先輩」が仲間という言葉を自分に向けて発してくれたことで、弓道部員として認められて嬉しい気持ちになった一方で、改めて野球部の仲間のことを思い出してなつかしさがこみ上げている。

4 弓道部員の前で恥をさらしたことで、「的場先輩」がかけてくれた仲間という言葉が慰めにならなほど落ち込んでいたが、自分のわがままを受け入れてもらえて嬉しい気持ちが湧き始めている。

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 野球部では技術的に優れていると言えなかった「会」が、弓道部員として練習をする中で弓道を愛する人々と出会い、過去を乗り越えていく姿を、本音をぶつけ合う会話を通して描いている。

2 思いがっていた「会」が、無力感を味わう経験をし、弓道部の先生や部員たちとのやりとりを通して自分の浅はかさに気づいていく姿を、登場人物の会話や心情描写を中心に描いている。

3 飽きやすい性格の「会」が、弓道の上達をあきらめていたにもかかわらず、気持ちを伝えてくれる部員たちとの会話を通して弓道に夢中になっていく姿を、複数の人物の視点から描いている。

4 弓道部の活動を通して、弓道に真剣に向きあうようになった「会」が、最初から弓をうまく引けたことで自信過剰になってしまった自分に気づく過程を、情景描写を中心に描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

（著作権上の都合により省略）

(ためすえ だい) 為末 大「熟達論」から。一部表記を改めたところがある。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|---|---|------|---|-------|
| 1 | A | だから | B | ところ | が | 2 | A | しかし | B | たとえば |
| 3 | A | さらに | B | つまり | | 4 | A | ところで | B | したがって |

(イ) 線1「失敗は悪いことばかりではない。」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 失敗をすることで、原因を追求する力が身につき、それ以上の推論をする必要がなくなるから。
- 2 失敗は、予想もしなかった結果を引き起こすことによって、遊びを生み出すことに繋がるから。
- 3 失敗をすることで、推論を重ねることが無意味だと気づき、実行することの大切さを学べるから。
- 4 失敗は、想定していた結果が出なかった理由を考えるきっかけとなり、学びに繋がっていくから。

(ウ) 線2「遊びは、熟達の道において『不規則さ』を生み出す。」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 主体的で面白さを伴うだけでなく、余白を含むという特徴も持つ遊びは、完全な予測をすることができる。できなくなる不規則な状況を作り出すことによって、熟達の道において重要な役割をになっている。
- 2 他者と共有しながら行うように押しつけられるという特徴を持つ遊びは、余白を生み出すことによって、自分一人では到達できなかった結果へ導いてくれるので、熟達の道において不可欠である。
- 3 熟達の道において、主体的に行われるという特徴を持つ遊びは、他者の意図が入り込む余白をなくすことで思いのままに物事を進めていくことができるため、自分の意図を柔軟に取り入れられる。
- 4 熟達の道において、余白を作り出せるという特徴を持つ遊びは、不規則な状況を生み出すこともあるが遊びを主体的に楽しむように意識することによって、生産性が高い状態を目指すことができる。

(エ) 線3「そのこと自体がある枠組みにとられる危険を孕んでいる。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分で設けた目標にこだわりすぎてしまうと、考え方が固定化されることによって最適化のための要求にこたえられなくなることに繋がり、自身の成長を止めてしまうかもしれないということ。
- 2 設定した目標を目指すことが、目標の求める条件に適した形に自身をあてはめがちになってしまうことに繋がり、一定の状態を越えて発展する可能性を失わせてしまうかもしれないということ。
- 3 自分の目標に適切でない方法を選んでしまうと、理想の姿を実現するための最適な道筋を想定できなくなることに繋がり、発展するための考え方が固定化されてしまうかもしれないということ。
- 4 要求された目標に向かって無理な計画を立てることが、最適化のための条件からはずれていってしまいうことに繋がり、結果的に成長することができなくなってしまうかもしれないということ。

(オ) ―線4「目指す姿を知らないままに、私たちは歩み始めている。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 未来を正確に予測した上で物事を進められるということはあり得ないため、最初の段階で思い描いていた自分が憧れている姿を忘れてしまった状態で、実際に物事を進め始めているということ。
- 2 未来は条件の違いによって結果が変わるものであるが、どのような感覚で技能が習得されていくかについては予測できるので、現時点の感覚にもとづいた理想の姿に向かって動き始めるということ。
- 3 事前に想定できることは限定的であり、未来を完全に予測することは不可能であるため、実際にたどり着くまでは自分の姿がどのように変わるのかわからない状態で物事を進めているということ。
- 4 すべての情報を完全に把握することによって未来予測は可能になると考えられるため、理想とする姿を実現できなかった自分を想定する必要はなく、目標に向かってひたむきに行動するということ。

(カ) ―線5「私はどのようなトレーニングにも必ず変化をつけるようにしていた。」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 馴化した状態を乗り越えながら適応していくことを目指す中で、同じ方法を継続しつつより負担を増やしたものに変わっていくことによって、成長の効果を最大化させられると考えているから。
- 2 馴化した状態を保つことにより効率化を目指していく中で、あえて慣れていない方法で適応させていくことによって、より大きな変化を見込むことができ効果的であると考えているから。

- 3 進みすぎた適応が引き起こす馴化によって成長を促す効果は表れにくくなるが、自分が慣れ親しんだ方法で改めて実行し直すことで、飽きずにトレーニングをし続けられると考えているから。

- 4 自身が飽きないようにすることに加えて、意図的に不安定な状態を作り、進みすぎた適応が引き起こした馴化を解消するために刺激を変化させることで、成長し続けられると考えているから。

(キ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 遊びと熟達の関係や、遊びの特徴を具体的に説明しながら、遊びの持つ不規則さこそが人を成長させることもあると指摘し、楽しく遊ぶことを目標とすることの大切さについて述べている。
- 2 熟達論における遊びの意味を定義づけし、遊びがあることによる不安定さに触れた上で、非効率に思える遊びが、熟達の過程で自己の成長の可能性を広げてくれるということを述べている。
- 3 遊びの特性を詳しく分析した上で、遊びの持つ不規則性に注目しながら、遊びは熟達の過程において秩序を乱す可能性があるとして指摘することによって、遊びが持つ危険性について述べている。
- 4 熟達論における遊びの意味と、一般的な遊びの意味の違いに注目し、一貫性のある目標を設定することによって、最適化された状態で効率よく熟達を目指していけるということを述べている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

江戸幕府の老中である「楽翁公」が、お供の者を連れて蕎麦屋に入り、店の「老翁」に「越中様（楽翁公の別名）」の行う改革について、身分を明かさないうまま感想を尋ねた。

（勢いが盛んな幕府の老中）

老翁は、この二人連れの一人が、当時日の出の閣老にて、空飛ぶ鳥をも落とす越中様ならんとは、夢にも心付かざりけるゆゑ、^{（そもそも）}「然ればなり、喜ぶ者は世の中の着実質素になりたるを喜ぶならん、迷惑する者

はわがまま勝手の自在になり難きを迷惑するならん。喜ぶ者と迷惑する者との多少は暫くおき、^{（注）}田沼が

遣り崩したる政治を、思ひ切つて改革せられしは、とにかく結構なることと言はざるべからず。併し^{（少し金銭的な余裕が出てくると）}

好事魔多く、物事変はりやすきは世の中の習ひなれば、越中様も懷囊が少しく温まると、必ず田沼の二の

（良い評判）（悪口）

舞をなし、今日の譽を明日の毀と流すならん。わたしが越中様の御家来なれば、その辺は抜け目なく

（あとで問題が生じないように念を押すだろうけれども）

釘を打つべきなれども、恐らく越中様にはその様な御家来はあらざるべし。」とおどけ混じりに述べ立て

たり。

楽翁公は終始黙して聞き居られしが、その夜はそのまま帰館せられ、翌日件の老翁を呼び出だせり。蕎

麦店の老翁は、如何なる御用にて御大老のお召しを蒙りたることなりやと、疑惑を抱きて奥庭に回り、恐

懼ながら首をもたげしに、^{（注）}図らざりき昨夜店前にて雑談せし客人が、素袍大紋の装束にて、厳然上座に現

はれければ、忽ちにして驚き、忽ちにして怖れ、一言半句の言葉も出でず、唯その場に俯伏して、恐れ入

る由申し上げるに、^{（にっこりと）}楽翁公莞爾として笑ひ、「否汝謝するに及ばず、余はかへつて汝に謝するなり。汝の

語りし如く、人といふものは、油断の生じやすきものにて、少しく懷囊の温まる時は、端なく種々の欲心

を起こし、終にその生涯を誤ること、古来その例少なからず、^{（注）}汝殊勝にも善き戒めを余に聞かせたり。余

は汝の功を嘉し、^{（功績をほめたえ）}汝を召し抱へ遣はすべし。」とて、直ちに扶持米を給与せられたり。この老翁、公の氣

に入り、公の上方へ上らるる時も、朱鞘の刀を腰にして、お供しけるとぞ。

（「想古録」から。）

（注）田沼Ⅱかつて老中として政治を行った田沼意次（一七一九―一七八八）のこと。

素袍大紋Ⅱ武士が身につけていた格式の高い服。

扶持米Ⅱ家臣に支給される米。

公Ⅱここでは、楽翁公のこと。

上方Ⅱ京都及びその付近。

(ア) 〰〰〰線ア―エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 〰線1「結構なることと言はざるべからず。」とあるが、そのように言ったときの「老翁」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「田沼」の政治によって勝手な行動が許されなくなったことについて、一定の評価をしている。
- 2 「田沼」の政治で世の人々が質素な暮らしを重んじるようになったことを、うれしく思っている。
- 3 「田沼」による政治の良い点を引き継いで「楽翁公」が改革を行ったことを、高く評価している。
- 4 「田沼」によって混乱させられた政治を「楽翁公」が改めたことについて、立派だと認めている。

(ウ) 〰線2「恐れ入る由申し上げるに」とあるが、そのときの「老翁」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「老翁」は、昨日出会った「客人」と「楽翁公」が同一人物であることに気づいて動揺するとともに、出過ぎた態度を「楽翁公」がとがめる言葉をぶつけてきている状況を恐ろしく感じている。
- 2 「老翁」は昨日、町中で「楽翁公」の良くないうわさを「客人」に流したことが発覚して呼び出されたと思い込んで恐れおののき、心から謝罪することで「楽翁公」に許してもらおうとしている。
- 3 「老翁」は昨日、「楽翁公」だと思って話をした相手が実は「楽翁公」の家来であったことに驚くと同時に、政治についての意見を「楽翁公」に伝えられなかったことをうしろめたく思っている。
- 4 「老翁」は昨日偶然出会って、雑談をした「客人」が「楽翁公」であったことに気づいて驚くとともに、「楽翁公」の行った改革や今後のふるまいについて意見してしまったことに恐縮している。

(エ) 〰線3「汝殊勝にも善き戒めを余に聞かせたり。」とあるが、そのように言ったときの「楽翁公」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人間は油断をしやすい生き物であって、金銭的な余裕が出ると人生を誤ってしまうこともあるという「老翁」の話を、優れた助言として感心しつつ受け止めている。
- 2 油断しないことで安定した人生を送ることはできるが、欲を抑えるとかえって人生を誤ることもあるという「老翁」の話を、素晴らしい助言として受け止めている。
- 3 人の考えは変わっていくものであり、人生での失敗も時代の価値観が変われば評価されることもあるという「老翁」の教えを、一つの助言として受け止めている。
- 4 欲望に素直に生きていくことで豊かな人生を送ることができるが、油断をすると失敗してしまうこともあるという「老翁」の助言を、共感しながら受け止めている。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「楽翁公」は、店の中で「老翁」と雑談を交わした際に得意げな様子で語られた政治の改革案や、「老翁」の人を観察する鋭い視点をほめたうえで、無礼を許した上でほうびを与えて家来にした。
- 2 「楽翁公」は、人間は気の緩みから評判を落とすことがあるので戒める存在が必要だという、人間の本质をついた蕎麦屋の「老翁」の話に納得して、「老翁」にほうびを支給した上で家来にした。
- 3 「楽翁公」は、町中の蕎麦屋で政治について語り合った「老翁」に、自身の政治が絶賛されたことに気をよくして、翌日「老翁」の自宅を訪れて自分のそばに仕える家来として雇いたいと伝えた。
- 4 「楽翁公」は、町中で改革について話し合った「老翁」が、政治についての話をするために自宅をたずねてきた熱心さに深く共感し、「老翁」にほうびを与えた上で家来として雇うことにした。

(問題は、これで終わりです。)

